

# 中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

## 鍬の峰登山道整備

終わらないのではないかと思われるほどの暑かった夏。しかし、暑さ寒さも彼岸までの言葉通り、秋の気配が感じられるようになってきた。大町岳陽高校山岳部は、夏合宿を終えたのち、いくつかの山行計画（外岩クライミングや鷹狩山での体力チェック）はあったのだが、天候の関係でなかなか実行できないでいた。結局、そのまま1か月を経過。僕自身も3年の担任なので、放課後は就職、推薦入試、AO入試などの指導、週末は模試監督や土曜日補習と忙しい日々。加えて秋の長雨である。

生徒のストレスもたまり、山に行きたい！岩に登りたい！というリクエスト頻り。そんな中でやっとのことで一日だけ見つけたのが16日の日曜日。岳陽山岳部ゆかりの山である鍬の峰の整備登山に行くことにした。3連休のど真ん中の1日。前後2日間は雨、この日も雨の予報だったが、奇跡的に天気はもった。何か拾い物をしたような一日。

すでに毎年かわらばんでも紹介しているので、ご承知の向きは多いと思うが、2000年に当時の顧問松田大さんの発案で開校100周年の記念にと、登山道を開鑿して以来、歴代の山岳部が整備事業を行ってきた。3年前には、日本山岳遺産にも認定された誇るべき事業である。例年は、夏山シーズン前に入山して整備するのだが、今年は大雨でできないまま生徒の間では懸案になっていた。時期的には遅れてしまったが、1年でも空白の年があると登山道は、笹に覆われてしまう。

当日は8時に学校集合。8時半、仏崎登山口をナタガマとノコギリをもっていざ出発。地図上に記載のない道に行くことになるので、はじめて作業に参加する1年生にとって

はいい読図練習にもなる。前日は大雨だったが、今日は曇り。このところのぐずつき模様の天候からすれば、降られないだけでも良しとせねば。しかし、道は連日の雨のせいで非常に滑りやすい。

仏崎から概ね西に向かいながら尾根をたどり、通称ゴジラの背という急坂を登りきると主稜線と出会う。ここまでが約1時間。ここで一息入れて、南西方向に向きを変えて、双耳峰の一方のピークである北峰を目指す。数か所シャクナゲと倒木で道をふさがれている部分を整備して、11時15分ころ北峰に到着。ここから頂上までおよそ2km。ここからが笹刈り現場となる。ナタガマを使って各自が20mほどの区間を担当してじわりじわりと前進していく。今回は生徒が10人、顧問が2人。今年の3年生が多かった（男子8人、女子5人）ので、過去2年間は大人数での作業だったが、今年は少数になり、





笹に覆われた道



笹刈り作業中



笹を刈ったあとの道

一人当たりの分担区も勢い多くなる。

しかし、生徒たちは、慣れない手つきながらも黙々と作業を続けてくれる。2年生はもうこの仕事にプライドをもっており、それにつられて1年生も何の違和感もなく、このボランティアに参加している。自分の分担区を終えて先へ進むときには、自然、「先行きます」「ガンバ」「ご苦労さん」と互いに声を掛け合っている。目の前を覆う笹にくじけそうになりながらも、後ろを振り返ると、今自分が刈った道がしっかりできあがっている。そして、そこを終えて、先へ行くと、友人が開鑿した道が堂々とつづいているのだ。果てしないと思われた作業もいつか終わりに近づき、山頂直下には幾輪かの竜胆が僕らを笑顔で迎えてくれた。

作業はおよそ2時間、生徒たちは山頂に着くまで昼食もお預けでがんばってくれた。山頂に近くなると赤とんぼの乱舞。疲れ切った中にも満足と充実感に満たされた笑顔があった。



## 編集子のひとりごと

21、22の両日、中信地区の新人大会が5年ぶりに木曽で開催された。前回は御嶽の噴火の前年であった。その翌年2014年の噴火は、火山の恐ろしさをまざまざと教えてくれ、多くの教訓

を残してくれた。しかし、活動も落ち着き26日には山頂までの登山が解禁になる。先日麓の王滝中学の生徒たちが二ノ池まで登ったというニュースも報道された。そんな状況下、我々も2日目の交流登山では安全性の高いとされている黒沢口から二ノ池まで登る予定だった。噴火後の御嶽に登るのはこれが初めてなので、いろいろな意味で行きたかったのだが、あいにくの雨で、残念ながら中止を決定した。(大西 記)